

2023年 2月期・Q3

決算補足資料 2023年 2月期

Financials

東証プライム 7599

IDOM Inc.

2023年1月13日

株式会社 IDOM CFOの西端です。

Financials

1. 2023年2月期 第3四半期実績	4
2. 業績予想の修正	16
3. トピックス	22
4. 補足資料	24

Appendix. 業績・財務の参考情報	27
----------------------	----

2023年2月期の第3四半期の決算と業績予想の修正などについてご説明します。

決算

国内コア事業（※1）は
売上高・営業利益ともに増収増益

・2023年2月期 第3四半期の国内コア事業は、
新収益認識基準の減益要因を乗り越えて増収増益。

売上高 2,770億円

前期比 +20.5%

営業利益 131億円

前期比 +18.9%

店舗

成長戦略の大型店と
整備工場のオープン

・大型店は1店舗オープン。

当初計画+1

・整備工場は1工場オープン。

年間計画通りの進捗

業績予想

通期連結増益の見通し

・豪州事業売却による減益要因を乗り越え、
通期連結増益の見通し。

IDOM Inc.

※1：「国内コア事業」は単体に子会社のガリバーインシュアランスと東京マイカー販売を含めた事業。（詳細はP26ご参照。）

3

まずスライド3をご覧ください。

今期第3四半期のハイライトです。

単体に国内子会社2社を加えた「国内コア事業」において、新収益認識基準のマイナス影響を乗り越え、増収・増益となりました。

特に、この3ヶ月の連結営業利益は前年同期の数値を上回りました。

成長戦略の大型店については当初の年間計画7店舗に加えて、新たに1店舗をオープンしました。

最後に今期、業績予想の修正を行い、通期で前期の連結営業利益を上回る見通しとなりました。

2023 Q3 Financials

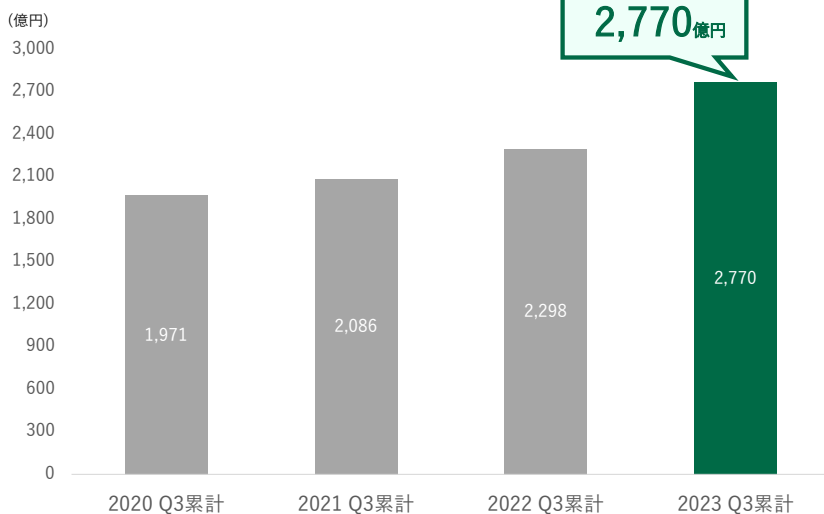
1. 2023年 2月期 第3四半期実績

Gulliver

IDOM Inc. ※グラフ・表などの数値は単位未満を四捨五入、比率は百万円単位で計算後、単位未満を四捨五入して表示。

ここからは国内コア事業の第3四半期実績についてお話しします。

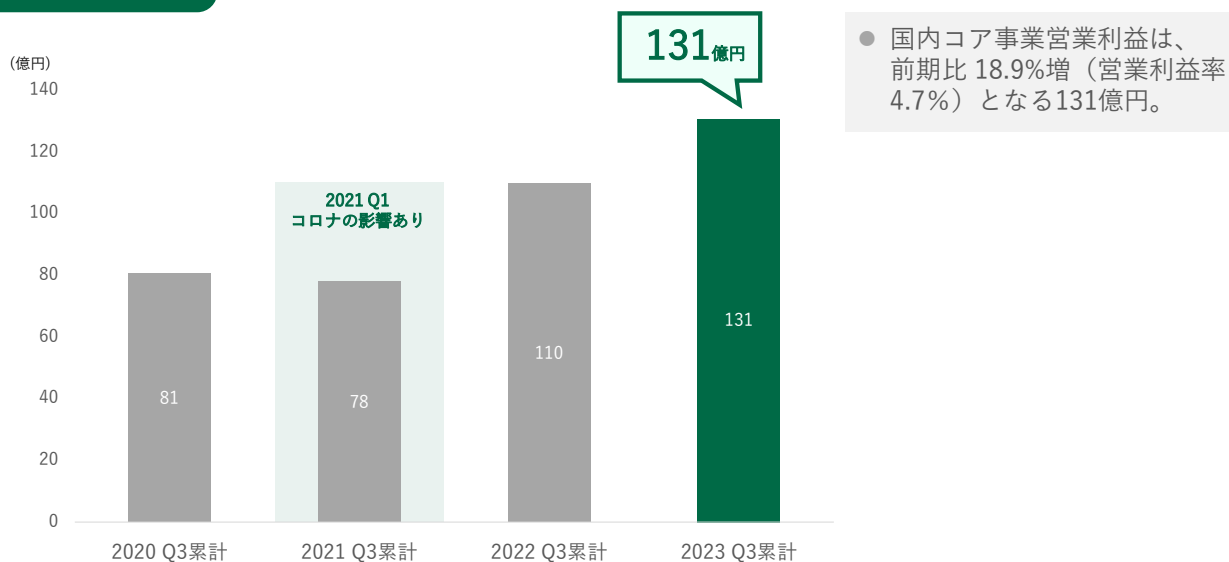
売上高の推移



- 国内コア事業売上高は、前期比 20.5%増となる2,770億円。

国内コア事業の最近4年間の第3四半期の売上高推移です。
小売・卸売共に好調で、当期は前期比で**20%**の増加となりました。

営業利益の推移



IDOM Inc.

6

次は営業利益の推移です。

21年2月期には新型コロナウイルス感染症の影響が残っていますが、全体としては、営業利益は順調に拡大し、今期は前期比**19%増**の**131億円**となっています。

国内コア事業 第3四半期 P/L実績（前期比）



	前期 2022・Q3累計	今期 2023・Q3累計	前期比 増減率（％）
（億円）			
売上高	2,298	2,770 ^①	+472 +20.5%
営業利益	110	131 ^②	+21
営業利益率（％）	4.8%	4.7%	+18.9%
経常利益	107	128 ^③	+21
経常利益率（％）	4.7%	4.6%	+19.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	60	128	+68
四半期純利益率（％）	2.6%	4.6%	+113.2%

- ① オークション相場の影響により単価上昇。
- ② 全ての段階利益において過去最高益。
- ③ 一時的な損益の計上（1）（2）（3）

（1）前期は本社移転費用を8.5億円特別損失に計上。

（2）豪州子会社の株式譲渡により、過年度に計上したのれんの減損損失額が課税所得から減算。

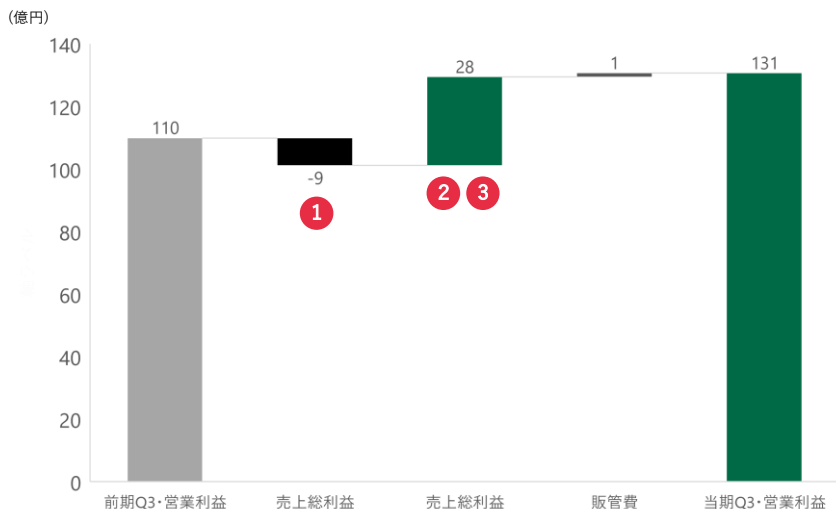
（3）豪州子会社の株式譲渡による関係会社株式売却益29億円を特別利益に計上。

国内コア事業の第3四半期の前年同期比の実績です。
営業利益・経常利益・当期純利益は第3四半期として最高益となりました。

売上高が伸びていますが、売上高営業利益率は4.7%とほぼ前期並みの水準まで回復しました。

四半期純利益は128億円。経常利益の好調に加えて、上期時点の要因と同様に特損益・税負担率低下の要因によって大幅増益となっています。

営業利益の増減分析（前期比）



① 新収益認識基準適用による影響により9億円の減益。

② 小売台数は店舗数の純減により減少も大型店小売台数は前年同期比で増加。小売台あたり粗利は増加。

③ 卸売台あたり粗利は横這い。卸売台数は増加。

このスライドは国内コア事業の営業利益の前年対比の増減分析を示しています。①から③は売上総利益についてです。

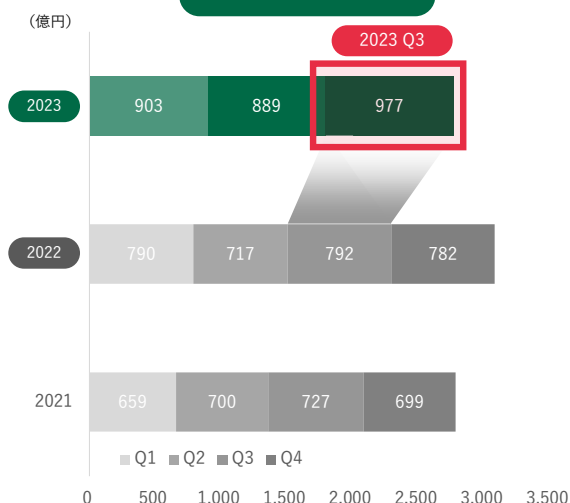
①について、新収益認識基準適用により9億円の減益要因となりました。整備付売上が拡大している事で影響が大きく出ました。長期的に見ればこの利益のマイナス要因は将来の増益要因になるものなので、あくまで会計上の影響と考えています。

②は小売粗利についてで、約13億円の増益要因となっています。台数は単価が高値で推移している事や店舗数の純減により減少しましたが、大型店の1店舗あたりの小売台数は+14%と好調です。小売台あたり粗利は大幅に増加しました。車体の台あたり粗利は安定的に20から25万円の水準で推移しています。これに加えて、これまでトライをしてきた付帯による台あたり粗利の改善が増益に貢献しています。

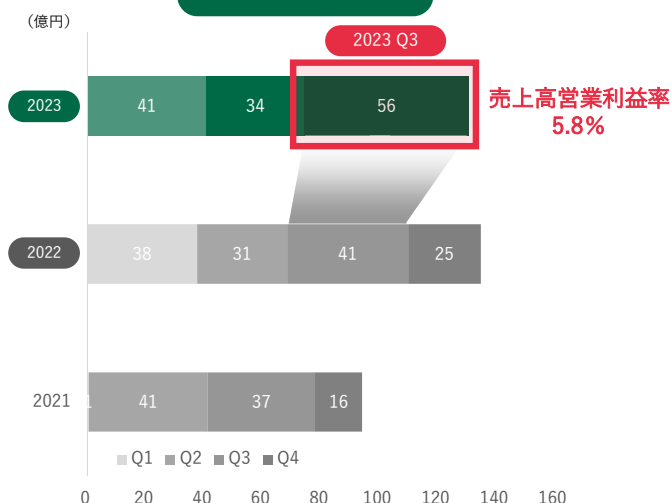
③の卸売粗利については、台あたりの粗利は約10万円を維持しています。一方で、台数が増加した事で約15億円の増益となりました。新収益認識基準の変更によるマイナスの影響を小売・卸売の好調によって、粗利益段階で押し返す事が出来ています。

販管費については、広告宣伝費の増加を本社移転による地代家賃の減少、新卒採用抑制による人件費の減少により相殺するようにコントロールしています。

売上高の推移



営業利益の推移



第3四半期3か月間の営業利益は56億円、前年同期比で15億円の増益となりました。売上高営業利益率は5.8%となっています。

	前期 2022・Q3累計	今期 2023・Q3累計	前期比 増減率 (%)
(億円)			
売上高	3,446	3,242	△204 △5.9%
営業利益	148	141	△6
営業利益率(%)	4.3%	4.4%	△4.4%
経常利益	140	137	△3
経常利益率(%)	4.1%	4.2%	△2.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	87	112	+25
当期純利益率(%)	2.5%	3.5%	+28.4%
豪州P/L 連結対象期間	9ヶ月間	3ヶ月間	

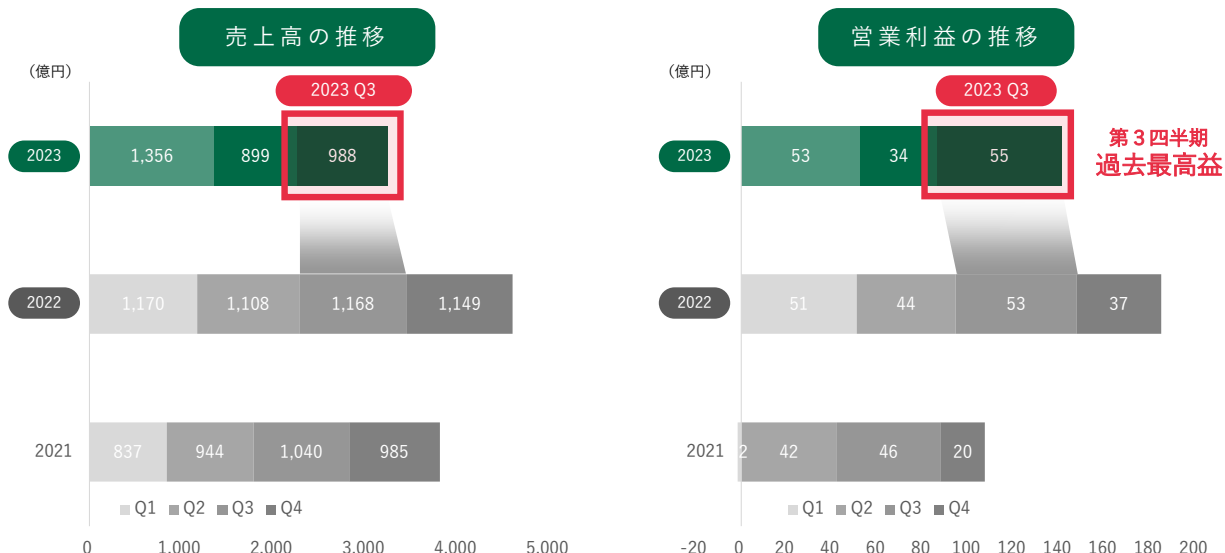
① 豪州事業売却により減益。

② 豪州事業売却による関係会社株式売却益を8億円特別利益に計上。

ここからは「連結」を中心に実績の説明をします。
 豪州事業売却により連結の売上高から経常利益まで減収・減益となっています。
 四半期純利益は国内コア事業と同様の要因によって、25億円の増益、過去最高益となっています。

連結 四半期別内訳の推移（直近3期分）

Gulliver



IDOM Inc.

11

このスライドは連結の四半期別の売上高と営業利益の推移を示しています。

第3四半期3ヶ月間の営業利益を見ると、豪州事業売却による減益の影響を乗り越え、前年同期比で増益となっています。四半期ベースで過去最高の営業利益となっています。

連結・貸借対照表（2022年11月期末）

資産 1,754億円	現預金 465億円	負債 1,158億円	有利子負債 771億円
	在庫 781億円		その他 386億円
	有形固定資産 257億円	純資産 596億円	自己資本比率34%
	その他 252億円		

IDOM Inc.

- 総資産は1,754億円。豪州事業売却により2月末比143億円の減少。
- オークション相場の高値推移、大型店出店や初売りの準備などにより在庫は8月末比116億増加、2月末比では73億円の減少。
- 現預金は2月末比8億円の増加。
- ネット有利子負債は23億円の減少。
- 自己資本比率は2月末の29%から約5%増加し34%。

12

連結BSの状況です。

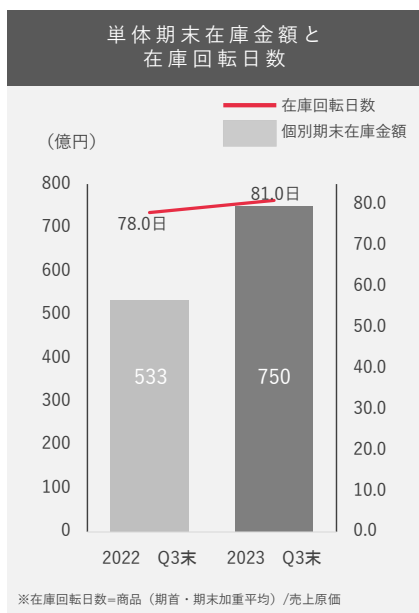
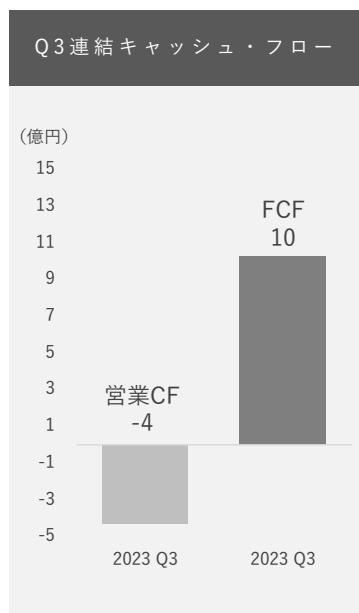
総資産は**1,754億円**。豪州事業売却により、前期末比**143億円**減少しました。

オークション相場が高値で推移していること、大型店出店準備、初売りなどに向けて在庫は**780億円**と**8月末比で116億円**積み増していますが、前期の**2月末**と比べると**73億円**の減少となっています。

期中の在庫の積み増しによって、現預金は**465億円**と前期末比で**8億円**のプラスに留まりました。

ネット有利子負債は**306億円**と**23億円**減少しました。

自己資本比率は前期末の**29%**から約**5%**増加して**34%**となりました。



- 事業の好調により在庫積み増し前で175億円のキャッシュを生み出す。大型店出店や初売りの準備の為に在庫を積み増した結果、営業キャッシュフローはマイナス4億円。
- 48億円を大型店や整備工場等への投資にあてるも、豪州事業売却によるキャッシュインの影響でフリー・キャッシュフローは10億円のプラス。
- オークション相場の影響により在庫金額は750億円と前年同期から40.8%増加。
- 販売需要に応じた在庫コントロールを継続的に実施。

IDOM Inc.

13

連結のキャッシュフローの状況です。
営業キャッシュフローは事業の好調により在庫を積み増し前で**175億円**のキャッシュをうみだしています。在庫積み増しの結果、営業キャッシュフローは**マイナス4億円**とプラス・マイナスがほぼ均衡しました。
大型店・整備工場など有形・無形固定資産の取得に**48億円**を投下しましたが、豪州売却のキャッシュインの効果があった為に、フリーキャッシュフロー(**FCF**)は**10億円**のプラスとなりました。

続いて、単体の在庫についてです。在庫台数は**5.8万台**と前年同期比で約**0.8万台**増加。オークション相場の高値推移により在庫単価も上昇したことから、**750億円**となりました。
ただし、販売需要に応じた在庫コントロールを継続しており、在庫回転日数は**81日**とコントロールしています。

今期オープンした大型店

Gulliver



LIBERALAお台場（2022年11月オープン）

東京都江東区

直近の店舗展開

【新規大型店オープン】

・LIBERALAお台場（2022年11月）※

今期の新規大型店の出店数 + **1** 店舗
当初出店計画 7 店舗 → 8 店舗
(年間計画を 8 店舗に上方修正)

※LIBERALAお台場は展示面積拡張によりオープン当初の中型店から大型店へ。

大型店舗数

33 店舗

(2022年11月末現在)

IDOM Inc.

14

成長戦略である大型店の出店状況です。
東京のお台場地区に11月に新店をオープンしています。1月から駐車スペースを拡大して大型店レベルになっています。これで大型店は現在**33**店舗となり、それぞれ好調に推移しています。
なお、この店舗は当初の計画には無かったもので、今年度の通期のオープン予定は**7**店舗から**8**店舗に増加します。

今期オープンした整備工場

Gulliver



高松東山崎整備工場（2022年9月オープン）

香川県高松市

直近の店舗展開

【新規整備工場オープン】

・高松東山崎整備工場（2022年9月）

今期の整備工場の出店数 + **1** 工場

整備工場数

12 工場

うち7工場が
指定工場取得済み

IDOM Inc.

15

今期は既存の大型店に追加する形で整備工場をオープンしました。累計**12**工場が稼働しています。

2023 Q3 Financials

2. 業績予想の修正

Gulliver

IDOM Inc.

ここから、業績予想の修正についてお話しします。

連結

2023年2月期 通期修正予想（前回予想比）

Gulliver

(億円)	前回予想	今回 修正予想	前回予想差
	2023・通期	2023・通期	前回予想比（％）
売上高	4,100	4,100	-
営業利益	170	185 ¹	+15
営業利益率（％）	4.1％	4.5％	+8.8％
経常利益	164	179	+15
経常利益率（％）	4.0％	4.4％	+9.1％
親会社株主に帰属する 四半期純利益	129	140	+11
当期純利益率（％）	3.1％	3.4％	+8.6％

¹ 付帯収益拡大トライアルの継続による小売台あたり粗利の増加と卸売台数の好調により増益となる見通し。

IDOM Inc.

17

通期の連結業績見通しの前回予想比です。
今期までの好調を反映して、売上総利益以下の段階利益を上方修正します。

連結 2023年2月期 通期修正予想（前期比）



(億円)	実績	今回 修正予想	前期差
	2022・通期	2023・通期	前期比（％）
売上高	4,595	4,100	△495 △10.8％
営業利益	185	185	+0
営業利益率（％）	4.0％	4.5％	+0.1％
経常利益	176	179	+3
経常利益率（％）	3.8％	4.4％	+1.9％
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	140	+32
当期純利益率（％）	2.3％	3.4％	+29.2％

① 豪州事業売却による減益要因を乗り越え、通期連結として過去最高益となる見通し。

IDOM Inc.

18

通期の前年同期比をご覧ください。

通期の営業利益は**185**億円と前期を上回り、豪州事業売却による減益の要因を乗り越える事が出来ると見えています。

国内コア事業 2023年2月期 通期修正予想（前回予想比）



(億円)	前回予想	今回 修正予想	前回予想差
	2023・通期	2023・通期	前回予想比（％）
売上高	3,580	3,580	-
営業利益	158	173 ¹	+15
営業利益率（％）	4.4％	4.8％	+9.5％

¹ 小売台数は通期で前回予想比減少も、付帯収益拡大トライアルの継続による小売台あたり粗利の増加と卸売台数の好調により、増益となる見通し。

国内コア事業の前回予想比です。

国内コア事業 2023年2月期 通期修正予想（前期比）



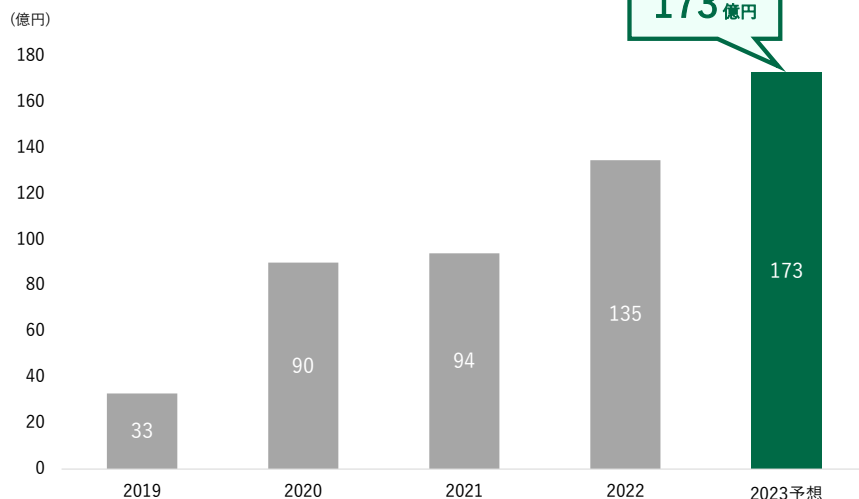
(億円)	実績	今回 修正予想	前期差
	2022・通期	2023・通期	前期比（％）
売上高	3,080	3,580	+500 +16.2%
営業利益	135	173 ¹	+38
営業利益率（％）	4.4%	4.8%	+28.4%

¹ 国内コア営業利益は前期比38億円の増益、28.4%の成長となる見通し。

国内コア事業の通期の営業利益は**173**億円となり、前期の**135**億円から**38**億円の増益となります。売上高営業利益率は同じく**4.4%**から**4.8%**に上昇します。

小売台数は厳しい状況が続きますが、トライを続けている小売台あたり粗利・卸売台数の増加により修正目標を実現して参ります。

国内コアの営業利益推移



- 第4四半期も大型店・整備工場を成長ドライバーとし、卸売台数、小売台あたり粗利の増加が継続する見通し。
- 連結で、4期連続増益を目指す。

IDOM Inc. ※「2023」表記は、2023年2月期を示す。

21

今回の業績予想の修正により、国内コア事業の営業利益は順調に成長しています。

また、連結ベースで見ても、豪州事業を売却しても前期の営業利益を上回り、20年2月期から4期連続の増益となる見込みです。

2023 Q3 Financials

3. トピックス

Gulliver

IDOM Inc.

最後にトピックスについてお話しします。

ガリバーのクルマ支援



全国の通園バスに
安全装置（置き去り防止ブザー）
を無償で取り付け。

予約受付数
100台/100台(1月時点)

震災復興支援



「第3回東北希望の
禪マラソン福島大会」
に特別協賛。
社員がランナーとして
も参加。

地域貢献



習志野高校吹奏楽部や周辺地域
の企業とコラボした
「WOW X'mas Party 2022」を
開催。

IDOM Inc.



この3ヶ月間で全国の通園バスに置き去り防止ブザーを無償で設置するなどスライドにあるような取り組みを行っています。

今期の3ヶ月で、大型店を追加でオープンし、いろいろなトライをしている付帯提案の取り組みも功を奏してきました。第4四半期も確実に成長を目指して取り組んで参ります。引き続き、宜しくお願い致します。